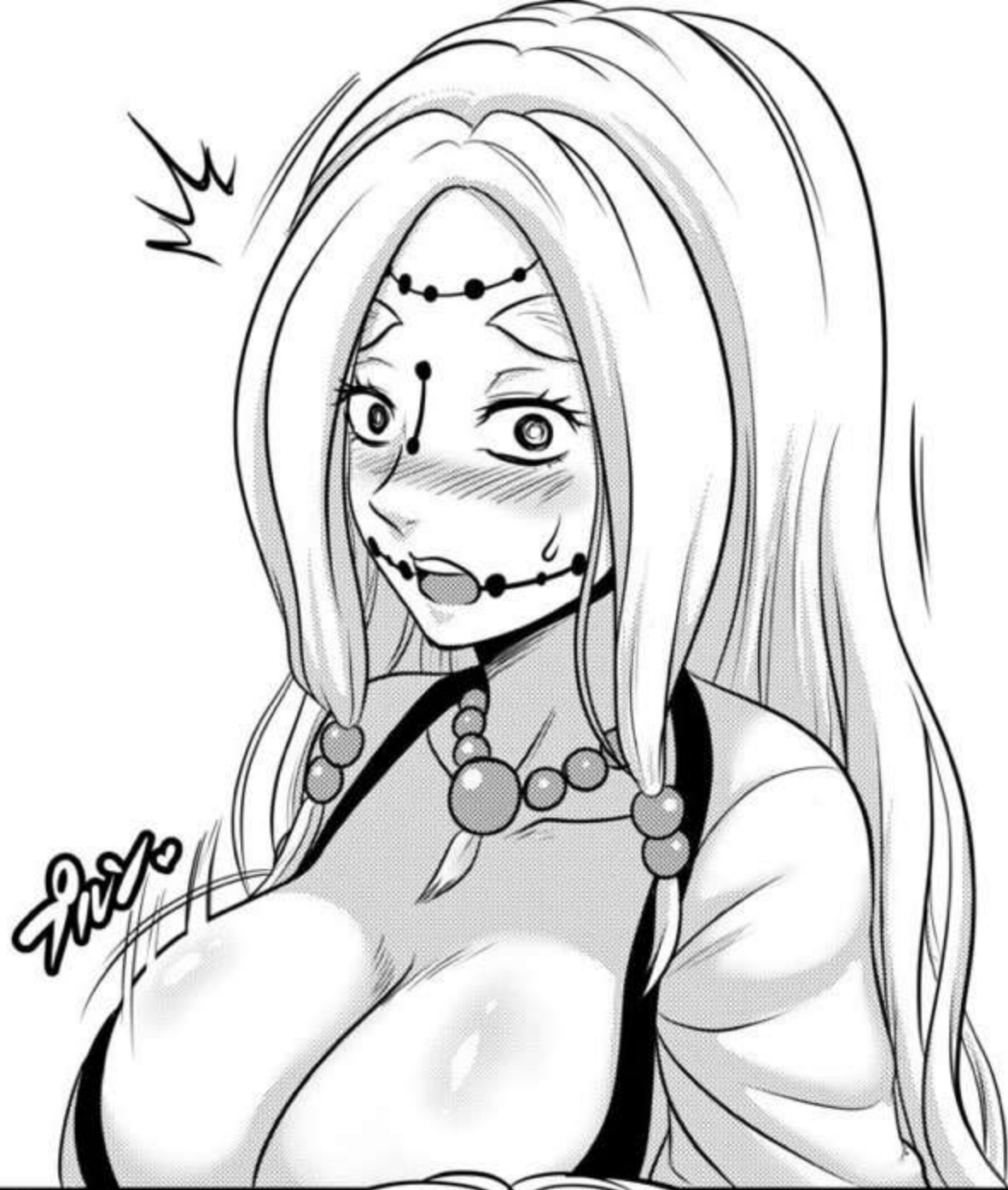




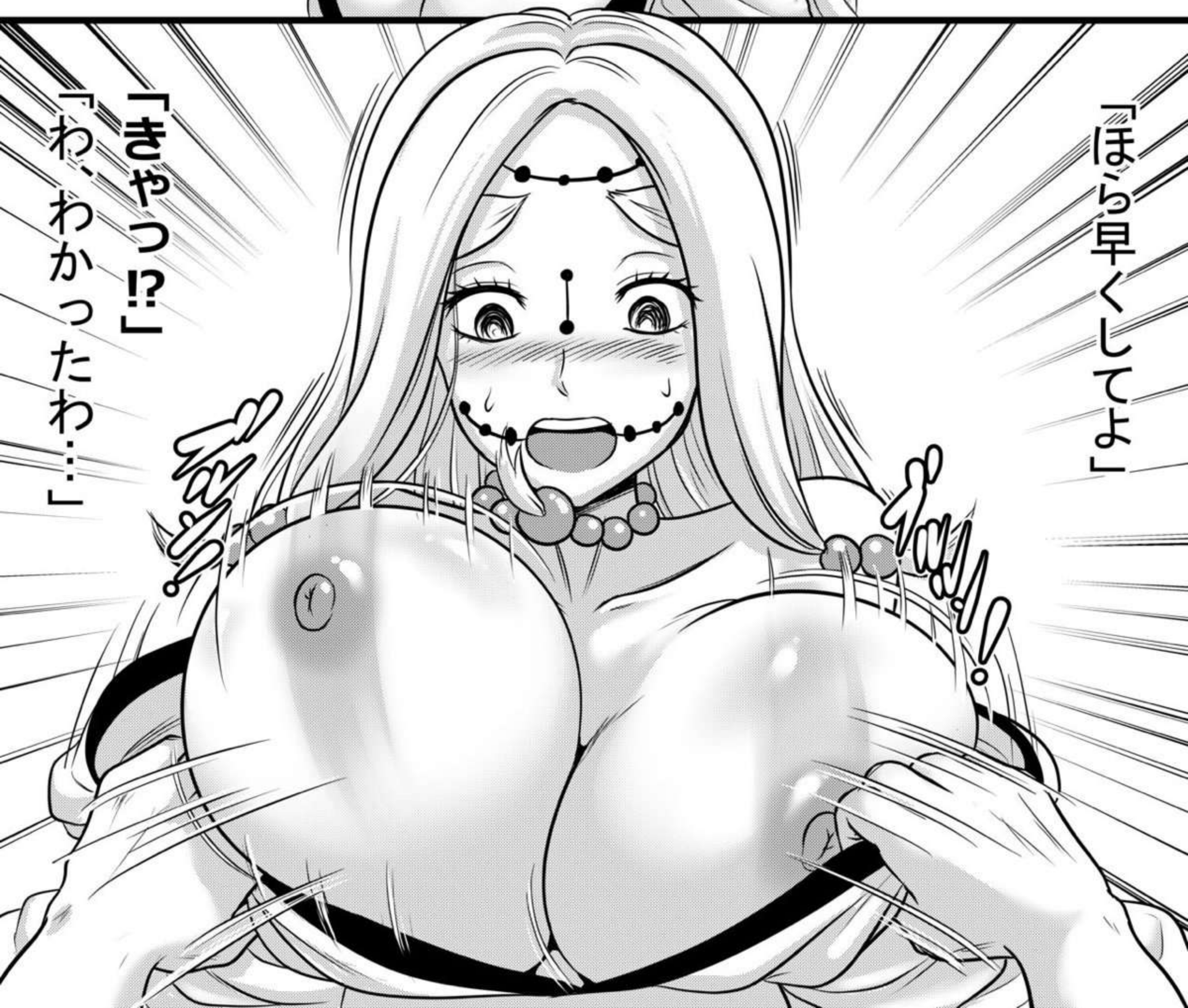
「ムラムラするから  
処理してよ母さん」



「えっ？わ、私が？」

「あ、早くしてよ」

「きやつ!」  
「わ、わかったわ……」





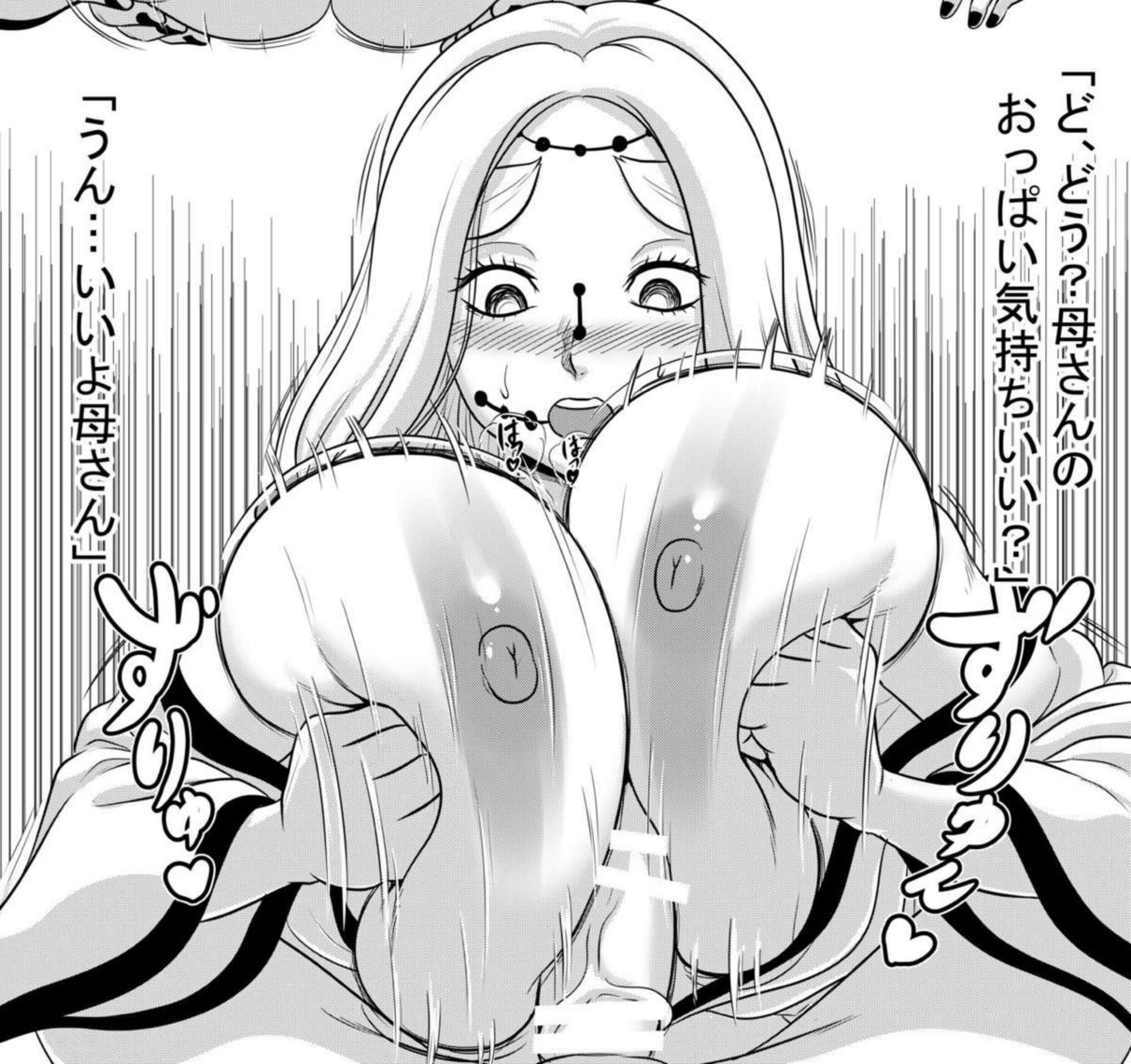
「挟んで」

「んっ…!んっ?」

たっ  
たっ

たっ  
たっ

たっ  
たっ



「ぶっぶっ…母をこの

おっぱい裏持ちっ…っ?」

「んっ…っ…お母を」

たっ  
たっ

たっ  
たっ

たっ  
たっ

「お母さん……そろそろ……」

「……お母さん……」

「いいおよ……母さんの  
おっぱい……」

「……」

「……出る……」

「んっ……熱い……」

「……」

「……」

「……」

「……」



「ま、まだ満足しないの？」

「当たり前でしょ…ほら挿れるよ」





「まだまだ終わらない  
からね…母さん」

「あっ♡…はあ…♡  
は、はい…♡」

「っまた…出るっ」